

調 査 票

(回答機関名 : ハイテクプラザ)

終了年度	実施機関	試験研究課題名
14年度	ハイテクプラザ 応用技術部 微生物応用科、グンダスト事業協同組合	微生物による未利用資源の高度利用化
試験研究の目的・内容・結果		
<p>平成12年度福島県ハイテクプラザ試験研究報告 p36 ~ 39 「微生物による未利用資源の高度利用化」</p> <p>平成13年度福島県ハイテクプラザ試験研究報告 p40 ~ 45 「微生物による未利用資源の高度利用化(第2報)」</p> <p>平成14年度福島県ハイテクプラザ試験研究報告 p34 ~ 39 「微生物による未利用資源の高度利用化(第3報)」</p> <p>福島・山形・新潟三県共同研究開発事業(平成12~14年度)研究成果報告書 平成15年3月発行「研究テーマ:再資源化技術(リサイクル技術)の研究開発 分担テーマ:微生物による未利用資源の高度利用化」</p>		
利活用の状況		
<p>平成15年度においては、製作した生ゴミ処理機を観光地のゴミの減量化のために利用した。また、「バイオマス利用による地域循環システム研究事業(平成16~17年度)」において、14年度に研究開発した生ゴミ処理機と、それを応用した新型の生ゴミ処理機を利用して地域循環システムの研究を行っている。その結果、排出される生ゴミを発酵させて処理することにより、約1tの生ゴミを22日間で、約550kgに減量することができた。(平成16年度福島県ハイテクプラザ試験研究報告 p108 ~ 111)</p> <p>更に、「ゼロエミッション食品リサイクル推進事業」においては、8軒の食堂等のグループが発酵槽を利用して、ゼロエミッション普及のための実証試験を行っている(平成16~18年度)。</p> <p>これらの事業においては、発酵槽の利活用だけでなく、発酵処理に当たっての投入量や投入時期の判断等ノウハウを移転し、「失敗しない発酵処理」を実現している。</p>		
利活用にあたっての問題点		
<p>処理量が日量100kg程度の発酵型の生ゴミ処理機の場合、価格が高く(500万円~1,000万円程度)導入することが難しい。また、実際に導入しても、調査によれば、導入した処理機の8割はいわゆる「死蔵」されている状態というのが現状である。</p> <p>こういった状況から、実際に処理がうまくいくのかという疑問を解消できず、導入に踏み切れない企業が見られる。</p>		
利活用を促進する提案		
<p>ハイテクプラザで製作した発酵槽を、一定の条件を付加して貸し出し、その企業(食品加工業者など)の廃棄物の状態にあわせた管理方法(投入量など)を指導した上で、導入の判断を行っていただき、処理機の導入が促進されると考えられる。</p>		
外部評価アドバイザーのコメント		
<p>バイオマス利用による小規模な循環システムとしての有用な技術開発と思うが、残滓の収集やたい肥の利用などシステム全体としての利用開発が重要で、地域への紹介、啓蒙が必要と思う。</p>		